

〔皇胤紹運録〕後堀河院母北白河院子 陳 基家卿女、

〔五代帝王物語〕中宮後堀河后 藤原子 嬪 是御懷妊ありて、寛喜三年二月十二日、四條院御降誕、あなめでた

とて、やがて十月廿八日に、太子に立せ給ふ、中 貞永元年十月四日、主上堀河 御位を避て東宮四

條に讓奉る、御年二歳、いつしかなるうへ、先例もよろしからずおぼえ侍き、中宮は同二年天福 四

月三日院號ありて、藻壁門院と申此院號又いかゞとおぼえしに、同年九月に御産とてひしめく

ほごに、御ものゝけこはくてうみかねさせ給ふ、内外の御いのり數をつぐし、大法祕法のこる事

なしといへども、つひにかなはせ給はず、餘りに大事にして、大臣いかゞせんずると、女院申させ

給へば、大殿は御涙にむせびて東西も覺え給はず、御寶物皆やさわけられけれどもかひなし、九

月十八日つひにうせ給ぬ、御年廿五、あさましとも云ばかりなし、

〔百練抄後十六 草〕寶治二年六月十八日甲午、院號定也、改中宮職爲大宮院 左大臣以下參仕之、

〔増鏡老の 波〕大かた此大宮院後 嵯 峨の御宿世、いとありがたくおはします、すべていにしへより

今まで、后國母おほくすぎ給ぬれど、かくばかりとりあつめいみじきためしは、いまだきゝおよ

び侍らず、御位のはじめよりえらばれ參り給ひて、あらしをひきしらふ人もなく、三千の寵愛ひと

りにをさめ給、兩院後深 草、龜山、うちつゝきいでものし給へりし、いづれも平らかに思ひの如く三代

の國母にて、いまはすでに御むまご後 宇多の位をさへ見たまふまで、いさゝかも御心にあはず、お

ぼしむすばるゝ一ふしもなく、めでたくおはしますさま、さし方もたぐひなく、行すゑにもまれ

にやあらん、いにしへの基經のおとゞの御女後醍醐 子 延喜の御代の太后宮、二代朱雀 村上、の國母に

ておはせしも、はじめいでき給て、ことになしうし給ひし前坊保 明、におくれ聞え給て、御命の

うちたへぬ御なげきつきせざりき、九條のおとゞ師 輔の御むすめ、藤原 天曆村 のきさきに

ておはせし、冷泉圓融兩代の御母なりしかど、めでたき御代をも見奉り給はず、御門にもさきだ